



発行責任者 病院長 岡野友宏
編集責任者 広報委員長 高橋浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1 TEL 03-3787-1151
ホームページ: <http://www.senzoku.showa-u.ac.jp/>

「予防に勝る治療なし」

保存科 科長 久光 久

日本は高齢社会に突入し世界有数の長寿国になりましたが、健康で楽しく長生きしなければ、長寿の意味はありません。年をとったら歯が無くなるのは仕方がないなどとあきらめないで、自分の歯を健康に保ち、いつまでも「食べるのが楽しい人生」を送りたいものです。そのためには予防が何よりも大切であり、その結果として歯を失うリスクが低くなります。

先日、「これから歯科ドックを受診しに行くと友人に言ったら、人間ドックならまだしもなんで歯科ドックなんか受けに行くの、と言われました」と歯科ドックの受診者が話してくれました。これが現在の日本人の歯科に対する一般的な認識なのでしょう。全身の健康を守るためには口腔の健康を守ることがいかに大切であるかを国民にもっと理解して頂きたいと願っております。

口腔の健康が全身の健康を支えていることは明白ですが、特に歯周病は、糖尿病だけでなく心筋梗塞、動脈硬化、呼吸器疾患、骨粗鬆症、関節炎、がん、未熟低体重児出産などに関連していることが明らかになっています。また、咀嚼が脳の血流量を増加させ活性化し、免疫力を高め、認知症、アルツハイマーなどの脳障害を予防し、運動機能やバランス感覚を高めるのみならず、満腹中枢を刺激してダイエットに貢献するほかに、成人病やメタボリックシンドロームの予防、そして唾液の分泌促進により、う蝕や口臭の予防にも貢献しています。

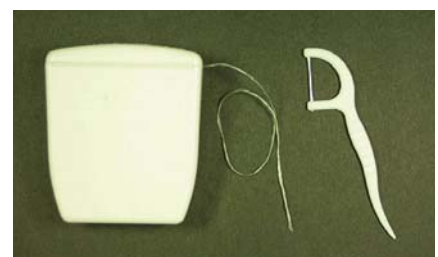
兵庫県歯科医師会が高齢者27000人の年間医療費を調べた結果、残存歯数が少ない人ほど医療費が高く、重い疾患を抱えて入院費や薬代がかさんでいることが明らかになりました。医療保険財政が逼迫しているとして医療費抑制策がとられていますが、医療費を少なくするためには国民の口腔の健康を維持・増進する政策が有効であ

ることが明らかです。多くの患者さんから「歯を失って初めて歯の大切さがわかりました。若いときからもっと歯を大切にしておけばよかった」という後悔の言葉をよく耳にします。残念なことに、80歳で平均残存歯数が10本弱というのが今の日本の現状。日本人は歯が悪くなってから歯科を受診する方が多いのですが、出来れば歯が悪くならないようにするために定期的に受診して頂きたいものです。



日本の健康保険制度は疾病保険であり健康な人が使えない制度ですので、歯が悪くなってから受診されるのかもしれませんが、虫歯や歯周病がひどくなってから歯科を受診したのではすでに手遅れで、歯を失う可能性が高くなります。アメリカの新聞や雑誌では歯の健康を維持することの重大性を Floss or die – bad gums linked to heart attack, premature birth. (USA today 1998)、Flossing protects far more than the teeth and gums. (New York times 1999)、The dangers of not flossing. (Good house-keeping 1999)のように、センセーショナルな言葉で表現し、フロス使用の大切さを国民に訴えています。

「予防に勝る治療なし」といわれるように、口腔疾患の予防の重要性を国民に訴えることの重要性を痛感しております。



デンタルフロス

歯周病科 紹介

1. 歯周病について:

現代は成人の8割が歯周病に罹患していると言われています。

歯周病は歯を支える組織(歯周組織)が、お口の中の歯周病菌によって壊されてしまい、たとえ虫歯のない丈夫な歯があっても抜け落ちてしまうことがある、やっかいな病気です。しかも近年はそれだけではなく生活習慣病や誤嚥性肺炎、低体重児出産などとの関連性も明らかになりつつあり、歯周病治療が実は歯の健康だけではなく体の健康増進や生活習慣病の改善、あるいはQOLの向上にも貢献することがわかってきました。

2. 治療の流れ:

「歯周病から歯を守り、できるだけ抜かずに治す」方針で治療を行っています。そのためには歯周病菌からの感染を防ぎ、歯ぐきの炎症を取り除かなければなりません。そのためには正しいブラッシング習慣により、細菌の塊である歯垢(プラーク)が歯に付かないようにします。それと同時に歯石を取り除く処置(スクレーリング)やバランスの悪い咬み合わせを治すことなどの歯周基本治療を行います。

3. 歯周外科治療:

それでも簡単には治らないような進行した歯周病には外科的治療を行います。通常フラップ手術という基本的な手術を行いますが、歯周組織再生誘導(GTR)法やエナメルマトリックスタンパク(EMD)を応用した先進的で高度な再生療法も取り入れています。

また、歯の根が露出してしまっている部分を再度歯ぐきで覆いかぶせる手術(歯根面被覆術)や歯を抜いたことで痩せてしまった歯ぐきを審美的に整形する手術(歯肉結合組織移植術)なども行い、歯と調和した歯ぐきを作ります。

4. メンテナンス・歯周病再発防止のために:

歯周病は再発しやすい病気です。取り戻した歯周組織の健康を長期にわたり維持し、再発を防ぐために定期的なメンテナンスを行うことで、お口や歯ぐきの健康管理を続けていきます。必然的に患者さんとのお付き合いも長いものとなり、日々多くの患者さんがメンテナンスのために来院します。

5. 診療体制:

日本歯周病学会指導医/専門医および認定医を含む13名(教授・准教授・講師・助教)と、その他教室員が専門的な診療にあたっています。

初診および紹介患者さんは、曜日担当の講師と臨床経験の豊富な助教が迅速に対応いたします。

今後は近隣歯科医師会とも連携させていただき、歯周病でお困りの患者さんにより質の高い医療サービスが提供できますよう積極的に取り組んでまいります。

6. 先進的歯科治療への取り組み:

再生療法のための組織細胞研究や再生療法の開発、さらに生活習慣病との関連などを解明し、治療に役立てるための研究も積極的に行っております。

(講師 宮澤 康)



日常の歯科診療



歯周外科手術風景

歯科医療最前線:「痛くない虫歯治療、歯を削らないMI治療」

3階東診療室保存科・准教授 伊藤 和雄

「痛みを感じたら左の手をあげて教えてください」と、言われて緊張しながら虫歯治療が始まりました。ところが、歯を削られているうちもそれほど痛くなく、いつの間にか治療が終了したみたいで、「はい、今日はこの歯の虫歯を削って、白い材料を詰めましたから」と、言われて手鏡を渡されたけれど、よく見てもどこを治療したのかよくわからない。これが最新の虫歯治療、MI(ミニマルインターベンション、生体への侵襲を最小に抑えた治療)です。

そもそも歯は再生しない組織です。虫歯によって歯が欠けてしまうだけではなく、歯科医師がドリルでいったん削りすぎてし



大臼歯の溝に発生した虫歯は内部で拡大しているために、歯が黒ずんで見える。



出来るだけ健全な部分を削らないように虫歯を取り除く。



コンポジットレジンで形態と審美性を回復する。

まっても、もう二度と歯は戻ってきません。歯の外層1mm程度は、硬くて白いエナメル質に覆われていますが、その内層はエナメル質よりも柔らかくて黄色みを帯びた象牙質からできています。象牙質には象牙細管という500分の1mm程度の直径を持つ無数の管が歯髄にまでつながり、この管の中を液体が移動すると痛みを感じると考えられています。ところが、虫歯になってもそれほど強い痛みを感じることがないのは、虫歯と健全な歯質の間の象牙細管にリン酸カルシウムの結晶が沈着することによって閉鎖され、刺激や感染を遮断する生理的バリアーが作られるからです。このバリアーは硬化象牙質と呼ばれ、虫歯から生体を保護するために形成されると考えられています。ところが、歯科医師がドリルでこの硬化象牙質を越えて削ってしまうと、象牙細管の中を液体が移動し、患者さんは初めて痛みを感じます。虫歯治療で大事なことは、歯科医師が治療中にこの硬化象牙質を削ってしまわないことです。1973年に東京医科歯科大学の総山孝雄教授は、削らなければならない虫歯の範囲だけに浸透するアルコール系の液体を赤く着色した材料を開発しました。ところが、臨床でこの液に染色される部分をすべて削ってしまうと、患者さんは痛みを感じる事が多く経験されました。このような欠点は、この材料に用いられているアルコールが虫歯をこえて健全な象牙質の中にまで浸透しすぎるためです。当院保存科では、5年前にこの材料の浸透性を改良し、感染した象牙質だけを的確に染めだす新しい検知液を開発しました。この研究成果はただちに国内のメーカーから新しい虫歯染めだし液として市販されました。



当院保存科で開発された虫歯染めだし液。



奥歯の間に虫歯になり、欠けてしまっている。



金属の詰め物を除去する。



虫歯の穴に染めだし液を滴下して水洗する。



赤く染めだされたところが除去すべき虫歯である。



赤く染めだされたう蝕だけを除去する。



最終的にコンポジットレジンで修復する。

新しい染めだし液は硬化象牙質を染めることはありません。歯科医師はこの液に染まった象牙質だけを丹念に除去するだけで虫歯を最小限に削除することができ、患者さんは切削時に痛みを感じることはありません。虫歯だけを切削したら、直ちに歯に強力に接着する材料を用いて、セラミックスの微粉末を含むプラスチック(コンポジットレジン)で歯を元の形態に修復することが理想的なMI治療です。虫歯のMI治療は3階東診療室保存科を中心に受診することができます。詳細は担当歯科医師にご相談ください。

去る7月11日、第2回健口フェスティバルを開催しました。昨年度に引き続き、公開講座のほかに健口体操・院内コンサート・健康相談・技工体験・模擬店を通じて地域とのふれあいを深めました。

公開講座では講師の説明を熱心に聞く姿が多く見られ、歯科衛生士による健口体操も好評でした。また、看護師による健康相談も評判で、歯科技工士による技工体験では、子供たちが興味津々で作業に取り組んでいました。さらに、模擬店では提灯が飾られた下で焼きそば・焼き鳥・ヨーヨー釣りをを行い、お祭り気分も盛り上がりました。院内コンサートは大変ご好評をいただき、1階ロビーを満杯にしました。総勢43名が出演して下さり、観客の方々から熱烈的な拍手が送られ、アンコールの曲で応える一幕もありました。コンサートの最後は全員で童謡3曲を大合唱し、約1時間半に渡ってロビー全体に澄み切った歌声と音色が響き渡り、大盛況のうちに幕を閉じました。

なお、模擬店等での収益金(70,540円)については、大田区に全額寄付させていただきました。



公開講座で講演する山本教授



歯科衛生士の指導による健口体操



技工体験に目をきらきらさせ興味を示す子供たち



焼き鳥調理が板に付いた職員



模擬店の料理に舌鼓



ヨーヨー釣りを楽しむ子供たち

編集後記

連続地震や大雨による土砂崩れ、新型インフルエンザの拡がりなど自然の猛威が次々とわれわれを脅かし、不安が掻き立てられる今日この頃ですが、世界陸上ではボルト選手がやってくれましたね。人類はまだまだ強くなっていることを証明するかのように、100m走で9秒58の驚異的な世界新を打ち立ててくれました。私達もボルト選手にあやかり、残暑に力強く立ち向かいましょう。

(K.T)

